

う。今後は種子生産量や葉の生産量のデータを加え、さらに詳しい解析を行いたい。

まとめ

ヒツジグサは酸性の水体によく出現することが知られている。今回の観察から、いったん浮葉を展開するまでに成長した個体は、水質がアルカリ性であっても、生育が可能であることがわかった。生産された種子はそこでは成長ができないが、これら成体の地下茎によって個体群は長期にわたって維持される。自然の湖沼やため池でヒツジグサがアルカリ性の水体で見られない原因は、1) 運ばれた種子が発芽・成長しないため、及び2) 成体の他種との競争、の2つが考えられる。

引用文献

- Brock, Th. C. M., Arts, G. H. P., Goossen, I. L. M. & Rutenfrans, A. H. M. (1983) Structure and annual biomass production of *Nymphoides peltata* (Gmel.) O. Kuntze (Menyanthaceae). *Aquat. Bot.* 17: 167-188.
- Heslop-Harrison, Y. (1955) Biological flora of British Isles. *Nymphaea* L. em. Sm. (nom. conserv.). *J. Ecol.* 43: 719-734.
- Kunii, H. (1993) Rhizome longevity in two floating-leaved aquatic macrophytes, *Nymphaea tetragona* and *Brasenia schreberi*. *J. Aquat. Plant Manage.* 31: 94-98.
- 國井秀伸 (1995) ため池の水草。沼田真編「現代生態学とその周辺」, 東海大学出版会 p. 46-54.
- 國井秀伸・荒巻 稔 (1987) ヒツジグサとジュンサイの浮葉の動態 (予報). *水草研究会報* 29: 24-26.
- Twilley, R. R., Blanton, L. R., Brinson, M. M. & Davis, G. J. (1985) Biomass production and nutrient cycling in aquatic macrophyte communities of the Chowan River, North Carolina. *Aquat. Bot.* 22: 231-252.
- Van der Velde, G., Giesen, Th. G. & Van der Heijden, L. (1949) Structure, biomass and seasonal changes in biomass of *Nymphoides peltata* (Gmel.) O. Kuntze (Menyanthaceae), a preliminary study. *Aquat. Bot.* 7: 279-300.

○神西湖の自然編集委員会編『神西湖の自然—小さな汽水湖・大きな恵み』(たたら書房, 1995年11月, 181 p, 2,200円)

神西湖は島根県出雲平野のはずれに成立した面積1.35 km²の小さな海跡湖である。周辺は水田や森で比較的自然の残された湖である。この湖の生い立ちから現在の環境、そして生き物の現状とそこで営まれる漁業について、それぞれの専門家が分担して紹介したのが本書である。第5章の20ページが「神西湖の水草」(國井秀伸氏担当)で、水草の生育型や生態的役割の概説のあと、神西湖に見られる水草が紹介される。湖の中には抽水植物しか見当たらないそうだが、周辺の農業用水路を中心にミズアオイ、コガマ、リュウノヒゲモなど他の地域では減少の著しい水草を含め20数種が確認されている。

最後の章は、湖の自然保護や活用をめぐる執筆者らによる座談会の記録である。農業や漁業の営まれる場で、どのようにして自然を生かし資源を守ってゆくのが議

論されている。

○愛知県自然観察指導員連絡協議会編集『中部の湿原』(東海財団発行, 1995年11月, 96 p)

中部地方の湿原を紹介した小冊子である。はじめに湿原とその生物についての概説があり、そのあと中部地方の代表的な湿原が写真と解説で紹介される。専門的な出版物ではなく観光案内と自然ガイドブックを兼ねたようなものだが、執筆者は地元の研究者であり、各湿原の特色が簡潔に描かれている。

問い合わせは、〒460 名古屋市中区錦3-21-24

〈東海銀行本店内〉(財)東海財団